

繁多川公民館



利 用 施 設 の ご 案 内



《 2 階 》



《 3 階 》

部 屋 名	収 容 人 数	用 途 (備 品)
ホール	200名程度	講演会・研修会・発表会(ピアノ・イス・テーブル)
和 室	30名程度	茶道・生け花・和裁・着付け・舞踊(テーブル・姿見)
ロビー		談話・学習スペース(イス・テーブル)
研修室1	40名程度	研修会・講座・会議(イス・テーブル)
研修室2	25名程度	研修会・講座・会議(イス・テーブル)
実習室	25名程度	調理実習・研修会・講座・会議 (調理用器具・イス・テーブル)

I 繁多川公民館の沿革

「那覇市社会教育施設整備計画」（平成5年2月）に基づいて、那覇市で7番目の公民館として計画された繁多川公民館は、繁多川・真地・識名地区の生涯学習の拠点として、平成15年12月22日に建設が着手され、翌年の平成16年11月25日に竣工した。

施設の設計にあたっては、地域の方々の参加により開催されたワークショップの結果や、建設準備委員会からの要望を元に検討した結果、施設全体を段差のないつくりとし、広いエレベーターや階段対応のリフトを設置したユニバーサルデザインを採り入れた施設になっている。

周辺の環境整備に関しては、建設前の既存の木々を可能な限り残してみどりを確保するとともに、施設前や屋上に芝生の広場、屋上菜園等を設け施設の緑化に努めている。

また、大きな窓で採光を図るほか、屋上に降った雨を地下のタンクに貯水し、施設内のトイレ洗浄や散水に活用する等、環境に配慮した設計がなされている。

- 平成17年1月5日 社会教育・スポーツ課 開館準備グループ（主査 田島壽博、主査 名渡山桂子、主査 平良尚子、主任主事 上江洲寛）で開館準備を進めるなか、業務の一部をNPO法人なはまちづくりネット（代表 田端温代）に委託された。
- 2月10日 館長 田島壽博が発令された。
- 4月1日 那覇市繁多川公民館が発足された。
- 4月2日 繁多川公民館及び図書館の開館式が行われ、利用団体・サークルへの公民館施設の提供が開始された。
- 6月7日 開館記念講座「琉球漢詩とゆんたく話と詩吟」が開催された。
- 平成18年4月13日 繁多川公民館利用団体連絡協議会設立総会が開催された。
- 11月25日 第1回繁多川公民館まつり前夜祭（ダンスパーティー）が開催された。
- 11月26日 第1回繁多川公民館まつり開催。舞台発表や作品展示、活動紹介などが行われた。
- 平成19年4月1日 館長 田島壽博が配置替えにより、館長 宇根克が発令された。
- 11月24日 11月24日、25日の両日にわたって、第2回繁多川公民館まつりが開催された。
- 平成20年4月1日 委託期間の満了に伴う新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人なはまちづくりネット（代表 大城喜江子）への一部業務委託を継続することになった。
- 平成22年11月2日 第63回優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける。
- 平成23年4月1日 館長 宇根克が配置替えにより、館長 新垣絹代が発令された。
- 平成23年4月1日 委託期間の満了に伴う新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人なはまちづくりネット（代表 大城喜江子）への一部業務委託を継続することになった。
- 平成25年3月28日 第14回「朝日のびのび教育賞」を受賞する。
- 4月1日 館長 新垣絹代が退職により、館長 高吉情次が発令された。
- 平成26年4月1日 委託期間の満了に伴う新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人1万人井戸端会議（代表 南信乃介）へ一部業務委託をすることになった。
- 平成27年4月1日 指定管理者導入により、新規受託団体の企画提案書審査の結果、NPO法人1万人井戸端会議（代表 南信乃介）への指定管理者が決定する。
- 令和2年2月14日 第72回優良公民館として文部科学大臣表彰と相互評価特別賞を受ける。
- 令和3年1月吉日 第8回「全国公民館報コンクール 銀賞」を受賞する。

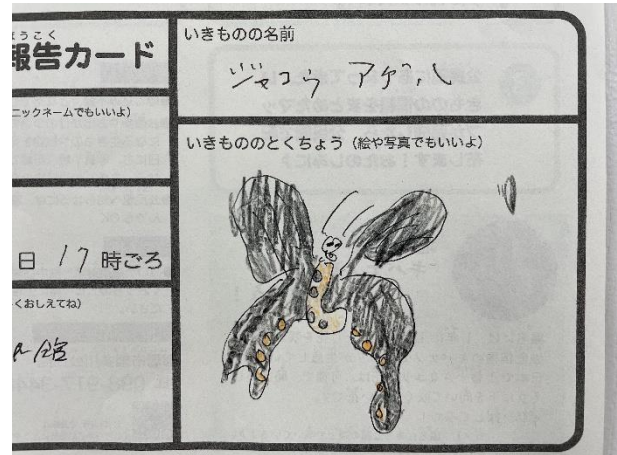
Ⅱ 令和3年度繁多川公民館事業目次

1 学習風景（写真） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	117
2 成人一般対象事業	
〔1〕成人講座	
◇貴重種キバナノヒメユリ保全プロジェクト	118
〔2〕健康講座	
◇ニュースポーツを楽しもう！！	119
3 高齢者対象事業	
〔1〕高齢者学級	
◇みんなでスマホデビュー	120
◇終活講座～よりよく生きるためのセミナー～	121
4 青少年対象事業	
〔1〕少年教室	
◇秋の星空観察会	122
◇オンライン工作講座	123
◇みんなで調べてつくろう！繁多川・識名らへんのいきものマップ	124
〔2〕青年講座	
◇公民館おたすけ隊	125
〔3〕親子ふれあい教室	
◇ゆし豆腐づくり貸し出しキット	126
5 家庭教育事業	
〔1〕家庭教育学級	
◇繁多川おやこそだて園	127
◇地域の子は地域で育むネットワーク事業	128
6 その他の事業	
〔1〕地域連携事業	
◇あたいぐわープロジェクト	129
◇識名園友遊会	130
◇真和志地区地域活性委員会	131
◇はんたがわ にんぐわちあしび	132
◇ちいさなロビー展	133
◇ちいさなロビー展「ロビーリノベーションプロジェクト」	134
〔2〕学社融合事業	
◇キャリア教育プロジェクト	135
〔3〕プロポーザル事業	
◇コミュニティー支援 『地域計画 教育部会』	136
◇コミュニティー支援 『地域計画 福祉・防災部』繁多川地域計画	137
◇コミュニティー支援 『グローバル公民館』	138

1 学習風景



高齢者学級
「みんなでスマホデビュー」



少年教室
「みんなで調べてつくろう！
繁多川・識名らへんのいきものマップ」



青年講座
「公民館おたすけ隊」



家庭教育学級
「地域の子は地域で育てるネットワーク事業」



地域連携事業
「はんたがわ にんぐわちあしび」



学社融合事業
「キャリア教育プロジェクト」

2 成人一般対象事業

〔1〕 成人講座

貴重種キバナノヒメユリ保全プロジェクト

趣 旨：「大石公園」、「キバナノヒメユリ」という身近な自然を活かしながら自然観察や実習を通して自然保全に努め、コミュニケーション・連携の活発化から住民参画や市民性教育を推進する。その中で持続可能な経済活動を考える材料とし、地域の誇れる花として活性化につなげる。

期 間：令和3年7月～令和4年1月26日（水）

時 間：学習プログラムにて異なる（下記参照）

場 所：繁多川公民館及びその周辺

対 象：キバナノヒメユリ里親／地域住民

受 講 料：無料 定員：なし 参加延べ人数：11人

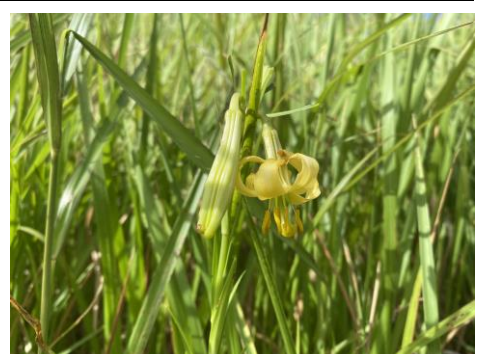
連 携：那覇市環境保全課、那覇市文化財課

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	連 携	人 数
7月～9月	自生地開花調査 ※緊急事態宣言により、公民館のみで現地確認を行った。	那覇市環境保全課 那覇市文化財課	1人
8月～通年	キバナノヒメユリポストカード販売 ※ポストカードの売上金はキバナノヒメユリ保全活動に活用される。	キバナノヒメユリ里親	—
緊急事態宣言により 開催を中止	太陽とキバナノヒメユリの夕べ	—	—
緊急事態宣言により 開催を中止	自生地の観察会	那覇市文化財課 環境保全課	—
令和4年 1月26日（水）	キバナノヒメユリ自生地 草刈り・抜根	那覇市環境保全課 那覇市文化財課 いどばた学童クラブ等	10人



《 草 刈 り 作 業 の 様 子 》



《自生地のキバナノヒメユリ》

【まとめ】

昨年度に引き続き、里親の皆さんが育てたキバナノヒメユリを持ち寄り、地域の皆さんと交流をする「太陽とキバナノヒメユリの夕べ」がコロナの影響により中止となった。また、自生地の開花時期も緊急事態宣言が発令されていたため、夏休みの企画として予定していた子どもたち向けの自生地自然観察会も中止となった。今年度の活動としては、自生地の草刈りのみとなってしまったので、次年度はコロナ禍でも開催できる工夫をしていきたい。

〔2〕 健康講座

ニュースポーツを楽しもう！！

趣 旨：年齢や体力にかかわらず、子どもから高齢者が一緒になって楽しみながら運動不足を解消し健康増進に努める。

期 日：令和4年3月26日（土）

時 間：10：00～12：00

場 所：繁多川公民館 3階ホール

対 象：那覇市在住・在勤・在学（親子参加可）及び興味関心のある人

受 講 料：無料（但し保険代50円は自己負担）

定 員：20人 申込人数：15人（うち受講決定人数13人） 参加人数：13人

講 師：那覇市スポーツ推進委員（島尻 香雄・武村 朝勝・金城 翔）

★★ 学習プログラム ★★



《シャッフルボード》



《ラダーゲッター》



《ディスクゴルフ》



《ニチレクボール》

【参加者の声】

- ・いろんな体験ができたので、楽しかったです。
- ・ラダーゲッターをやってみたかったから、うれしかった。
- ・PTAや学年レクで使えそうですね。とても楽しかったです。
- ・初めて挑戦するスポーツばかりでしたが、小学校1年生の息子も一緒に楽しんで、いい汗を流すことができました。



《輪 投 げ》

【まとめ】

新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置により2月から3月へ延期し開催となった。当日、広場で予定していたニュースポーツの『クッパ』が雨天の為、実施出来なかった。『ラダーゲッター』はテレビで観てやってみたかったから、できて良かった。との声もあった。コロナ禍で普段運動ができなく、アンケートからも「楽しんで、いい汗を流すことができました」と回答があった為、次年度も感染拡大予防に努めながら、工夫し企画をしていきたい。

3 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

みんなでスマホデビュー

趣 旨：情報社会の現代で、高齢者は情報弱者となっている。日常生活の中でインターネットを活用したサービスが増え、スマホやパソコンを使いこなせない高齢者はどんどん社会に取り残されていく。その現状を放置せず、簡単な操作方法などを学ぶ。

期 間：令和3年10月12日（火）～10月26日（火）全3回

時 間：10：00～11：30

場 所：繁多川公民館 研修室1・2

対 象：真和志地区老人クラブ会員

受 講 料：無料

定 員：10人

申込人数：12人（うち受講決定人数9人）

参加延べ人数：25人

講 師 名：赤嶺 智



（沖縄県警察本部 サイバー犯罪対策課 サイバー犯罪対策係）

★★ 学習プログラム ★★

回	日程	内容	講師等	参加人数
1	10月12日 （火）	基本的な操作について スマホとガラケーの違い、文字の入力 写真を撮る、検索する	底原 春香 （公民館職員）	9人
2	10月19日 （火）	LINEの使い方 LINEの入れ方、友達を追加する 写真を撮って送る、LINE通話やテレビ電話をする	底原 春香 （公民館職員）	7人
3	10月26日 （火）	インターネット犯罪について ・事例をふまえながら、インターネット犯罪について知る ・インターネットを使う上で大切なこと	赤嶺 智	9人

【参加者の声】

- ・スマホが怖くなったけど、早くなれるようにしたい。
- ・スマホのマークや用語がよくわからない。

【まとめ】

情報社会と言われる現代で、スマートフォンに慣れていない高齢者は情報を得られず取り残されている。「コロナ禍で外出できない、仲間に会えない状況にあるため、スマートフォンを使えるようになってコミュニケーションを取れるようになりたい」などの繁多川繁友会（老人会）からの相談で実施しました。初回は基本的なスマートフォンの操作、2回目はLINEの使い方を公民館職員が講師となり実施しました。3回目は、県警サイバー犯罪対策課から講師をお呼びし、インターネット犯罪（フィッシング詐欺など）について講演を行いました。

1、2回目の講師を公民館職員が務めたのは講座内だけでは覚えられない操作を講座後もフォローする為です。実際に、講座の受講生が定期的にスマートフォンの使い方を聞きに訪れます。気軽に相談できる相手がいることでスマートフォンへの苦手意識を少しでも軽減し、スマートフォンの活用を促しています。

スマートフォンを扱える範囲に個人差があるため講師一人では個別対応が難しいなどの反省もありましたが、今後も実施していきたい講座の一つになりました。

終活講座～よりよく生きるためのセミナー～

趣 旨：「人生100年時代」と言われている中で、終活をきっかけに自分の今後について考える機会を設ける。また、講座を通して家族と「よりよく生きるため」にどうすればいいのかを話し合うきっかけとする。

期 間：令和3年12月7日（火）～12月14日（火）全2回

時 間：10:00～12:00

場 所：繁多川公民館 3階ホール

対 象：真和志地区老人クラブ会員

受 講 料：無料 定員：50人 申込人数：60人（うち受講決定人数36人）

参加延べ人数：60人

講 師 名：東恩納 寛寿（中城メモリアルパーク所長 終活カウンセラー上級）

城間 恒浩（行政書士ジャージ総合法律事務所 行政書士）

★★ 学習プログラム ★★

回数	日程	内容	講師等	参加人数
1	12月7日 (火)	ポジティブな終活 ・最近の葬儀について ・実体験をふまえた終活の大切さ	東恩納 寛寿	36人
2	12月14日 (火)	よりよく生きるために必要なこと ・相続について ・遺言書についてなど	城間 恒浩	24人



《ポジティブな終活》



《よりよく生きるために必要なこと》

【参加者の声】

- ・さっそくエンディングノートを書いてみます。
- ・定期的に開催して欲しい。

【まとめ】

多くの方が参加され「今どきの葬儀について」や「なぜ終活が必要なのか」「遺産相続について」などためになる話が多く、アンケートでは「エンディングノートを書いてみます」「わかりやすかった」などの声がありました。「次回も開催して欲しい」などの声も多く満足度が高かったこともわかりました。

今回は当事者対象に行いましたが、子や孫世代からも「両親が心配だから自分も聞きたかった」などの声があり、次年度は当事者だけではなく、子や孫世代も一緒に参加できる内容や時間帯に開催したいと思いました。

4 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

秋の星空観察会

趣 旨：宇宙の仕組みや惑星の不思議を学び、秋の星座や惑星を実際に観察する事により、創造性豊かな人間形成を目指し、集団学習の機会を提供する。

期 間：令和3年10月14日（木）、16日（土）※申込み多数により同内容で2回開催

時 間：18:00～20:00

場 所：那覇市繁多川公民館研修室及び屋上

対 象：小学生（親子参加可）

受 講 料：無料（但し保険料は自己負担）

定 員：各15人 申込人数：27人（うち受講決定人数27人） 参加延べ人数：27人

講 師 名：田端 研二（星空案内人 沖縄運営事務局長）

宇久 淳子（星のソムリエ 星空案内人）

★★ 学習プログラム ★★

①宇宙の仕組みについて ②惑星の不思議について ③観察会



《 宇 宙 の 仕 組 み ・ 惑 星 の 不 思 議 に つ い て 》



《 屋 上 で の 観 察 風 景 》

【参加者の声】

- ・月は地球のどれくらい小さいか解らなかったけど、分かりやすく説明してくれたから理解できた。
- ・星には興味があまりなかったのですが、望遠鏡でいろいろな星や惑星を観察できたし、星座を知れたので興味をもちました。

【まとめ】

新型コロナの影響で開催が危ぶまれたが、感染拡大予防対策を行い実施する事が出来た。別日を設ける程申込みが殺到し子ども達の反響が大きかった。

オンライン工作講座

趣 旨：コロナ禍で在宅時間が増えている子どもたちは、自宅での過ごし方がテレビやゲームなどに偏りがちである。そこで、自宅でひとりでもできる簡単な工作（カップドローン）を楽しんでもらおうと企画した。放課後子ども教室などで工作を指導して下さる地域のすぐりむんの方が用意して下さった工作キットを活用し、作り方や遊び方を紹介した動画をY o u T u b e で公開して、参加者がいつでも気軽に視聴できるようにする。

配信期間：令和3年9月21日（火）～10月29日（金）

場 所：繁多川公民館及び各自宅（動画配信：繁多川公民館 Y o u T u b e チャンネル）

対 象：那覇市在住・在学の小学生 受講料：無料

定 員：10人 申込人数：0人 視聴回数：18回 協力：繁多川すぐりむん

★★ 学習プログラム ★★

QRコードが入ったチラシを学校で各家庭に配布し、参加希望者は工作キットを公民館窓口に取りにきてもらう。自宅で作り方のY o u T u b e 動画を視聴しながら、カップドローンを作って楽しんでもらう。



《参加を呼びかけるチラシ》



《Y o u T u b e のトップ画像》



《リサイクル素材を使ったキットで作製！》

【まとめ】

カップドローンの工作はこれまでも何度かやっているが、目の前で飛ばして見せるとすぐに興味を持って意欲的に取り組んでくれる。作り方も簡単で小さい子どもでもハサミさえ使えれば挑戦でき、自分で作ったドローンがふわっと飛ぶ喜びがある。今回の講座ではコロナ禍で工作体験の機会が少ない中、リモートでできないかという試みであったが、工作の内容と、来館やY o u T u b e 視聴が必要という煩わしさとの間でバランスが見合わなかったことが、本講座への参加が得られなかった反省点として捉えている。動画やキットの活かし方を見直して今後につなげたい。

みんなで調べてつくろう！繁多川・識名らへんのいきものマップ

趣 旨：コロナ禍で自宅にこもりがちな子どもたちへの外遊びのきっかけづくりのひとつとして、身近な地域での生き物探しを呼びかけ、集めた報告をまとめたマップを作成する。マップを展示することで、「こんな生き物が身近な地域にいるんだ！」という発見や、次の生き物探し探検への動機につなげていく。

期 間：令和3年8月16日（月）～10月29日（金）

場 所：繁多川公民館周辺の繁多川地域・識名地域

対 象：那覇市在住・在学の小学生 受講料：無料

定 員：なし 申込人数：8人（うち受講決定人数8人） 参加延べ人数：8人

★★ 学習プログラム ★★

参加者は対象地域で自由に生き物を探し、発見したら観察して公民館へ報告してもらう。報告の方法は、公民館で用意した報告カードを使うか、スマートフォン等で写真を撮ってLINEで報告する。集まった生き物の報告をマップにまとめて掲示を行う。



《生き物報告を盛り込んだマップ》



《近くの畑でみつけたよ！》



《近くの車で見つけたよ！》



《参加者からの生き物報告》

【参加者の声】

- ・初めて見つけたチョウをつかまえて、名前をしらべてしることができてうれしかった。
- ・生き物をとるのはすきだけど、報告するのはむずかしくてあまりできなかった。

【まとめ】

地域には生き物が豊富なのに、参加や報告が期待よりも少なかったのが残念だった。参加する子どもたちにとって講座の魅力が物足りず、また報告することもハードルが高く大人のサポートが必要であった。親子参加や、講師から学ぶことができる、オンラインで交流できるなどの改善を次は考えたい。

〔2〕青年講座

公民館おたすけ隊

趣 旨：青年を対象に地域や異年齢間と関わりを持つきっかけとする。また、ボランティアを行うことで、コミュニケーション能力の向上、豊富な知識の取得などを旨とするとともに、個人の成長や将来社会に出たときの自信に繋げるきっかけにし、地域の担い手を育成する。

期 間：令和3年10月2日（土）～ 令和4年3月19日（土）

時 間：イベントや講座により変動有

場 所：那覇市繁多川公民館とその周辺

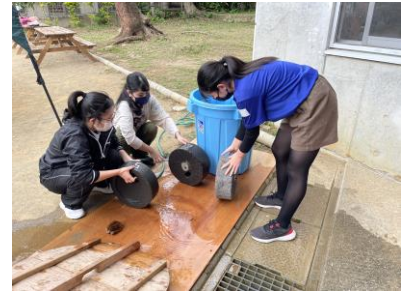
対 象：識名小学校5年生・6年生、真和志地域の中学校及び高校

受 講 料：無料

定 員：なし

申込人数：49人 参加延べ人数：54人

参 加 校：識名小学校／松川小学校／壺屋小学校／石田中学校／松城中学校／寄宮中学校
開邦中学校／松島中学校／首里高等学校／沖縄尚学高等学校／那覇西高等学校



★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	参加人数
令和3年 10月 2日（土）	「ワクワクゆんたく食堂 畑づくり」へボランティア参加	3人
10月15日（金）	「はんたがわプレーパーク」へボランティア参加	9人
11月14日（日）	「松川・繁多川 子どもの居場所応援フェスタ」へボランティア参加	6人
11月23日（火祝）	「松島自治会 秋のふれあいキャラバン in 宝口公園」へボランティア参加	19人
12月 4日（土）	繁多川自治会主催「豆腐の月」へボランティア参加	9人
12月21日（火）	「公民館美化活動」へボランティア参加	2人
令和4年 2月27日（日）	「はんたがわ にんぐわちあしび」へボランティア参加	4人
3月19日（土）	「非常時・災害時 避難経路、まちあるきから考える。5丁目編」へボランティア参加及び「公民館おたすけ隊 終了式」	2人

【参加者の声】

「毎回違うメンバーで人脈も広がったし、沖縄の文化に触れることが出来て楽しかった」「今回初めてボランティア活動に参加しましたが、イメージしていた堅苦しい感じがなく誰とでも話すことができたのでとても楽しかったです」等の声が上がっている。

【まとめ】

今年も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動休止期間が長かったが登録自体は49名と意欲的な子が多かった。また、今年からは対象年齢を少し下げた。小学生の間からボランティアに携わることで、中学生、高校生になっても地域に愛着を持ってもらえるような仕組みづくりを意識した。

次年度はボランティアだけではなく、登録した子どもたちのスキルアップにつながるような研修なども実施していきたい。

〔3〕 親子ふれあい教室

ゆし豆腐づくり貸し出しキット

趣 旨：コロナ禍で外出が制限される中、地域の特産品を家庭でつくることで親子間のコミュニケーションの向上を図る。また、特産品に気軽に触れることで地域に興味関心を持ってもらうきっかけとする。

期 間：令和3年10月中旬から令和4年2月中旬

場 所：那覇市繁多川公民館及び各自宅

対 象：小中学生の児童とその親、興味関心のある人

受講料：無料（但し、材料費250円は自己負担） 定員：6家族

申込人数：5人（うち受講決定人数5人） 参加延べ人数：5人（YouTube視聴回数：45回）

★★ ゆし豆腐セット貸し出し内容 ★★

・ミキサー（1台）・塩（12g）・しぼり袋（3枚）・国産大豆（300g）・にがり（10cc）・レシピ

豆腐づくりの工程



大豆は沢山の水に約7時間程漬けます



フタをして、しっかり砕きます



絞る際には「上」から「下」に絞ると袋が破けるので、揉むように絞ります



中火で温めます



渦が出来たら、お椀の液体を鍋のふちから入れます



火にかける

にがりを打つ

完成！！

【参加者の声】

紙のレシピだけではなく動画もあったので作りやすかったです。ゆし豆腐も美味しかったです。ただ、自宅で作ったので、完成したゆし豆腐がレシピ通りに作れているのか正解がわからず不安でした。

【まとめ】

コロナ禍で外出自粛が長引く中、おうち時間を利用して親子で何かできないかと企画しました。長期休みに実施している、昔ながらの豆腐づくり体験は毎年人気があり、この体験を自宅でもできたらいいのではないかと、体験セットの貸し出しを行いました。

実際に利用したのは1組でした。告知が遅くなり緊急事態宣言も明けたこともあり、周知がうまくいかず参加者が集まりませんでした。また、企画が決まってから告知まで時間がなく地域ニーズをうまくプログラムに組み込むことができませんでした。



《参加者が自宅で作った様子》

5 家庭教育事業

〔1〕 家庭教育学級

「繁多川おやこそでて園」

趣 旨：乳幼児の子どもと親を対象に地域の保育園と連携して公民館で出張保育を行い、公民館と那覇市子育て応援課が連携をして、保健師による子育ての相談、親子で楽しめるプログラムの提供等、待機児童の親子や孤立しがちな子育て世代の居場所として、安心して子育てできる地域の拠点を目指す。

期 間：令和3年6月10日（木）～令和4年3月23日（水）10：00～12：00

場 所：繁多川公民館 研修室／和室

対 象：那覇市在住・在勤の親子

受 講 料：無料 定員：5組10名

申込人数：44人（うち受講決定人数44人）

参加延べ人数：135人

（定員を超えた際には部屋を広げて対応）

協 力：識名さつきこども園、長田保育園
いしだ丘保育園、童夢認定こども園



《 活 動 風 景 》

期 日		内 容	担 当 園	参加人数
令和3年 6月	10日（木）	オンラインでの開催（歌や手あそび）	なおちゃん先生	4人
10月	13日（水）	おもちゃ作り、歌あそびなど	長田保育園	6人
	18日（月）	おもちゃ作り、歌、ハロウィン製作など	いしだ丘保育園	6人
	27日（水）	ハロウィン製作、読み聞かせなど	童夢認定こども園	4人
11月	1日（月）	おもちゃ作り、歌、自由遊びなど	識名さつき認定こども園	4人
	10日（水）	中止	長田保育園	0人
	15日（月）	おもちゃ作り、読み聞かせ、歌など	いしだ丘保育園	8人
12月	9日（木）	読み聞かせ、おもちゃ作り、歌など	識名さつき認定こども園	2人
	13日（月）	クリスマス製作、歌や手あそびなど	なおちゃん先生	13人
	20日（月）	歌や絵本読み聞かせ、保健師相談など	いしだ丘保育園	12人
	22日（水）	クリスマス製作、歌やおどりなど	童夢認定こども園	15人
令和4年 1月	6日（木）	コロナ感染拡大により開催を中止		
	13日（木）			
	19日（水）			
	24日（月）			
	31日（月）			
2月	10日（木）	お部屋開放Day	まん延防止期間のため 保育士の派遣はお休み	8人
	17日（木）	お部屋開放Day		2人
3月	2日（水）	手あそび、読み聞かせなど	識名さつき認定こども園	11人
	9日（水）	マット遊び、読み聞かせ、歌など	長田保育園	6人
	16日（水）	食育体験、読み聞かせ、自由あそびなど	童夢認定こども園	14人
	23日（水）	足型製作、歌や手あそびなど	なおちゃん先生	20人

【参加者の声】

「コロナ禍で同じくらいの年の子どもと関わる機会がほとんどなかったのでうれしかった」、「いつも平日は子どもと2人なので、新しいお友だちができ、一緒に楽しく遊べてよかった」、「手あそびや紙芝居、手作りのおもちゃなど、子育ての参考になった」、「お父さんが参加できるように土日の開催も検討してほしい」等の声があった。

【まとめ】

昨年度に引き続き、コロナの影響でだいぶ遅れての開催となった。そのような中でも、保健師による子育て相談やオンライン開催など新しいチャレンジもでき、親子の居場所として定着してきている。

地域の子は地域で育てるネットワーク事業

趣 旨：家庭の孤立によって見えづらくなる問題（DV、虐待、ネグレクト、貧困、不登校、性被害など）を地域と学校が連携し、課題解決や解決に向けた仕組みづくりのきっかけとする。また、専門家による講演や関係者による勉強会を開催し、家庭・学校・地域全体で学び合う機会とする。

期 間：令和3年4月13日（火）～令和4年3月15日（火）

場 所：那覇市繁多川公民館 事務所・3階ホール・屋上 **対象：**那覇市在住・在勤

受 講 料：無料 **定員：**各50人／性教育講座、20人／いどばたごはん会

申込人数：70人（うち受講決定人数70人）／性教育講座

14人（うち受講決定人数14人）／いどばたごはん会

参加延べ人数：343人

★★ 性教育講座 ★★

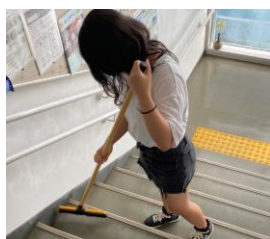
期 日	内 容	備 考	参加人数
5月15日（土） 10:50～ 15:00	親子で学ぶ性教育講座 「自分のからだを知って自分を大切にしよう」 対象：5、6年生の保護者と子ども	講師 徳永 桂子氏 （思春期保健相談士）	40人
15:30～ 17:30	「支援に活かす性の多様性講座」 対象：子どもの支援者、子どもに関わる仕事をしている方など		30人

【参加者の声】

「扱いにくい、話しづらいテーマですが、講師の先生が明るくとてもわかりやすく話してくださりととてもためになった。しっかり復習して子どもたちにも伝えたい。」「徳永先生の話がとても分かりやすく勉強になった。子どもを性被害から守る取組みをできるところからやっていきたい。」「地域の誰でも参加したくなるような切り口もあるといい。性教育は地域や社会全体で学ぶべきことだと思うので。」等の声があった。

★★ いどばたごはん会 ★★

期 間	内 容	備 考	回数
4月13日（火）～ 令和4年3月15日（火）	いどばたごはん会 毎週火曜日に地域の支援が必要な子ども・家庭に対して物資の提供を行う。	体温体調チェック、 アルコール消毒の徹底	39回



《ボランティア活動のようす》



《物資提供のようす》



《性教育講座のようす》

【まとめ】

今年度は、子どもに関わる性教育講座や、これまで実施してきたいどばたごはん会を1つの事業として取組み、一体的な支援や学びの場を提供した。性教育講座に関しては、ぜひ学校の授業で子どもたちが学べるように働きかけをしてほしいとの保護者からの声もあり、近隣の小・中学校へ呼びかけ、次年度の授業の中で公民館がコーディネートして開催する運びとなった。

いどばたごはん会に関しては、コロナ禍ということで昨年度に引き続き物資提供が主ではあるが、子どもたちとのコミュニケーションを大切にすることで、公民館スタッフとの信頼関係も生まれてきた。

そこから公民館講座のボランティアへ参加する生徒も見られ、地域との関わり、様々な人との関わりへつながっていった。

6 その他の事業

〔1〕 地域連携事業

あたいぐわープロジェクト

趣 旨：沖縄在来種の青ヒグを子どもが育て、「昔の繁多川豆腐」を再現する中で、食文化の継承（味と製造過程）とさらなる地域の活性化に寄与する。

期 間：令和3年4月30日（金）～令和4年3月下旬

時 間：学習プログラムにて異なる（下記参照）

場 所：那覇市繁多川公民館及び各小学校

対 象：識名小学校／真地小学校／上間小学校

受 講 料：無料

定 員：なし 参加延べ人数：603人

共 催：繁多川自治会／かりゆし友の会

あたいぐわープロジェクト



《識名小学校：クルマ棒打ち》

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	連携先	参加人数
4月30日（金） 8：30～11：30	真地小学校3学年 種まき	真地小学校3学年	82人
5月 6日（木） 13：30～14：00	識名小学校3学年 プランター引継ぎ式	識名小学校3学年	21人
5月26日（水） 13：30～14：30	識名小学校3学年 オリエンテーション（歴史編）	識名小学校3学年	100人
10月19日（火） 10月21日（木） 10月22日（金） 13：30～15：30	識名小学校3学年 オリエンテーション（豆腐編）	識名小学校3学年	100人
10月28日（木） 13：45～15：45	識名小学校3学年 クルマンボウ体験	識名小学校3学年	100人
11月25日（木） 14：30～15：30	識名小学校3学年 ゆし豆腐の試食会	識名小学校3学年	100人
令和4年3月中旬～下旬	識名小学校3学年 プランターに種まき	識名小学校3学年	100人
※識名小学校は新型コロナの影響により、豆腐作りは中止となりました。 ※真地小学校は新型コロナの影響により、種まきのみの実施となりました。 ※上間小学校は新型コロナの影響により、総合学習は中止となりました。			

【まとめ】

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、豆腐づくりを行うことはできませんでしたが、代打案として、地域の豆腐屋に学校で育てた沖縄在来大豆「青ヒグ」を使ったゆし豆腐を作ってもらい、試食することができた。今後も、コロナ禍でもできるやり方を学校側と連携して実施していきたい。

識名園友遊会

趣 旨：真和志地域の誇りである世界遺産・国指定特別名勝「識名園」を会場として活用し、青少年団体等における伝統文化の継承と新しい文化の創造、青少年の健全育成と地域の活性化および文化財保護の啓発を図ることを目的として開催する。

期 間：令和3年8月～10月（小禄中企画講座）

令和4年2月22日（火）（実行委員会）

場 所：小禄中学校（企画講座）、識名園友遊会実行委員会（真和志支所地下1階）

対 象：小禄中学校3年生、識名園友遊会実行委員会及び関係者

申込人数：53人（小禄中学校3年生40人、実行委員会13人）

主 催：識名園友遊会実行委員会

★★ 学習プログラム ★★

そしてそして、観光地には欠かせないお土産を考えてみました。

それは、、、苔リウム！！！！

こんな感じで苔を育て
識名園の風景を再現します！
（左が苔リウム、右が識名）

気似てない？



苔リウム識名園Ver.

概要

識名園の美しい風景を石や苔を使った苔リウムで再現する。苔は市販に売っている苔を使って自分で識名園の風景を再現する。完成した苔リウムは持ち帰ることができる。

毎日開催するのではなく、期間限定みたいな感じで開催することで、特別感がでて人が集まってくると思います！（苔にも優しい）



デートスポット

- ・入場人数UP
- ・歴史や景色をアピール
- ・思い出としてのこる



育徳泉

育徳泉は、沖縄独特の「あいかた積み」で作られていて、周囲の小川や井戸が枯れても、湧き続けたと言われています。また、天然記念物のシマチスジノリの発生地指定されています。

【参加者の声】

- ・小禄中学校の生徒たちの企画はとても面白い。
- ・大人では中々浮かんでこないもの。この企画を一つでも実現させてみたい。
- ・是非、那覇市文化財課にも共有してほしい。
- ・次年度は地域の学校と連携した事業を考えたい。
- ・地域の生徒が識名園に身近に感じる為、地域の学生限定で無料にしてほしい。

【まとめ】

今年も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、イベントとしての識名園友遊会は中止となったが次年度を見据え、小禄中学校のキャリア教育と連携した識名園友遊会企画講座を行った。内容は舞台やイベントのプロデューサーをしている西平（繁多川公民館）が講師となり、第1回は・識名園の概要・友遊会の活動・企画の作り方を講話、第2回は生徒からの中間発表を評論、第3回では評論を受け修正した企画を最終発表提案という流れで、上記のような中学生ならではの面白い企画提案が生まれた。結果として次世代への世界遺産識名園の啓発に繋がり、主催側も新しいアイディアを知る良いきっかけとなった。

真和志地区地域活性委員会

趣 旨：自治公民館及び自治会相互の連絡提携や学習活動等を通し、真和志地区の教育力の向上を図る。

期 日：役員会 令和4年2月19日(土)
大九州物産展 令和4年3月23日(水)～28日(月)

場 所：役員会（真和志支所地下1階 会議室）
大九州物産展（繁多川公民館3階 フロアー）

対 象：真和志地域の各自治会会長並び会員、地域住民
参加延べ人数：役員会10人

<新規組織構成>

委 員 会：真和志地区自治会（40自治会）

委 員 長：西平 博人（真和志自治会長連絡協議会副会長）

副委員長：門下 長徳（県営繁多川高層住宅自治会会長）

副委員長：比嘉 恭一（有限会社白バラ洋菓子店社長）

事務局長：南 信乃介（那覇市繁多川公民館長）

顧 問：大城 寛子（真和志支所支所長）

顧 問：田島 繁（真和志自治会長連絡協議会会長）

顧 問：玉井 栄良（安里2区自治会会長）

顧 問：照屋 満（那覇市中央公民館館長）

相 談 役：宮城 能彦（沖縄大学）

相 談 役：濱川 尚志（那覇市地域包括支援センター繁多川）

相 談 役：座間味 亮（株式会社赤マルソウ社長）

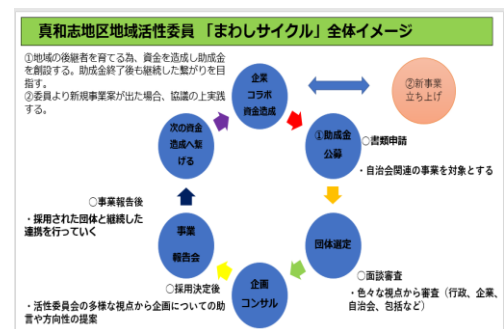
相談役（新）：新本 博司（那覇市社会福祉協議会）

相談役（新）：仲村 丘学（包括支援センター松川）

相談役（新）：大得 英之（包括支援センター松島）



《会議の様子》



《後継者育成イメージ》



《大九州物産展》

【まとめ】

当委員会は研修、懇親を目的に活動していた団体から、地域課題にアグレッシブに対応していく為、組織編成を行い真和志自治会長連絡協議会の下部組織になった。役員は自治会長、地域企業、地域大学、包括支援センター、那覇市公民館、真和志支所といった多様なメンバーとなっている。

今回の役員会では、資金造成とその資金を活用した地域の後継者育成に向けた助成金事業の提案がなされた。本委員会に参加している企業、自治会、関係団体が連携した資金造成事業を行う事が決定し、資金造成第一弾として「大九州物産展」が繁多川公民館3階フロアーで5日間開催された。（真和志地区地域活性委員会後援）

資金造成プランは次年度より第二弾も実施予定で、他にも「県北部地域との交流事業」「地域小中学校への講師派遣」など真和志地域の活性化にむけ多様な取り組みが計画予定である。

はんたがわ にんぐわちあしび

趣 旨：屋外でムーチー作り体験や月桃ほうき作り、地域をテーマにしたかるた作りなどを感染症対策を講じながら実施する。高齢者と中高生ボランティアが運営に携わり、子育て世代や子どもたちが参加して楽しむという形で世代間交流を促進し、また郷土文化に触れる機会とする。

期 日：令和4年2月27日（日）

時 間：10：00～12：00

場 所：那覇市繁多川公民館 広場

対 象：繁多川周辺地域の人

受講料：無料 定員：なし 参加延べ人数：73名

共 催：繁多川自治会

協 力：那覇市地域包括支援センター繁多川、那覇市繁多川図書館



《ムーチーふるまい》

★★ 学習プログラム ★★

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| ○ムーチー作り体験 | ○月桃ほうき作り体験 | ○繁多川かるたを作ろう |
| ○繁多川シェアマーケット | ○絵本の読み聞かせ | ○タッチケア |



《初めてのムーチー作りにわくわく》



《月桃の葉でほうき作り》



《親子でかるた作り》



《タッチケア》



《シェアマーケットのコーナー》



《図書館による読み聞かせ・手遊び》

【参加者の声】

- ・ほうきが月桃の葉っぱで手作りできると初めて知った。
- ・ムーチーを作るとき、ひもをしばるのが難しかったけれど、手伝ってもらってできたのがうれしかった。
- ・初めてのボランティア体験で、大変だったけど楽しかった。

【まとめ】

コロナ禍のため一度延期になり、制限解除後によりやく実施することができた。久しぶりに地域の多世代が集い、和やかな雰囲気の中で交流することができた。自治会や中高生のボランティアスタッフはそれぞれの持ち場で生き生きと活動し、子どもたちも様々な体験に目を輝かせていた。感染対策の取りやすい屋外の体験・交流を今後も企画していきたい。

ちいさなロビー展

趣 旨：地域住民の交流の場と情報交換ならびにコミュニケーションを深める場として、各人・各学校・各団体の作品発表の場にする。

期 間：令和3年4月～令和4年3月

時 間：9：00～21：30

場 所：那覇市繁多川公民館 階段掲示板／2階ロビー

見学延べ人数：約2,200人

★★ 展示内容 ★★

回	期間	タイトル	提供（協力）先
1	6月～ 令和4年2月	那覇市制100周年あんやたんは写真展	繁多川すぐりむん
2	6月～10月	認知症・熱中症について	那覇市包括支援センター 繁多川・松川
3	12月	季節展：クリスマスツリー	
4	12月～ 令和4年2月	あなたの声をお聞かせください 「公民館でやってみたいこと、やってほしいこと、 期待すること」	繁多川公民館 利用団体連絡会
5	3月	季節展：雛人形	
		包括支援センター紹介	那覇市包括支援センター 繁多川・松川
常設 展示	通年	・昔の暮らし展 ・昔ながらの豆腐づくり展 ・壕の中で発見された遺留品展	地域住民など



《あんやたんは写真展》



《包括支援センター情報》



《常設展示》

【まとめ】

今年度は緊急事態宣言期間のため、公民館の臨時休館期間が長かった。定期利用者の来館は減ったが、コロナワクチン接種会場になったことで、初めて来館される方が多かった。初めて来館される方にもこの地域がわかるような展示を心がけました。また、市制100周年ということもあり、この地域の昔と今を比べる写真を展示するなどの取り組みも行いました。

利用団体連絡会とも連携し、公民館について地域の方々と話し合うためのアンケートをロビーで行い、様々な年代が公民館について考える機会ができました。次年度は、季節展示や常設展示もより見やすいように工夫していきたいです。

ちいさなロビー展「ロビーリノベーションプロジェクト」

趣 旨：琉球大学建築学コースの学生有志と沖縄工業高校建築学科の協力のもと、繁多川公民館2階ロビーを、いつでも、誰でも利用しやすい空間としてリノベーションを行い、ロビー機能（地域の支援窓口、展示、キッズスペース、ワーキングスペース、本の貸し出し等）の充実を図る。

期 間：令和3年4月～令和4年3月4日（金）

場 所：那覇市繁多川公民館 2階ロビー 対象：那覇市在住・在勤

協 力：琉球大学工学部工学科建築学コース、沖縄県立沖縄工業高等学校建築学科

参加延べ人数：12人

実施日	場所	内容	参加人数
4月～令和4年2月	沖縄工業高校	沖縄工業高校建築科の生徒による製作	2人
令和4年3月4日（金） 10:00～12:00	繁多川公民館 2階ロビー	ロビーリノベーション完成披露会	10人



《製作のようす》



《利用者のようす》



《テーブル》



《プロジェクトメンバー》



《とうふいっちょあがり》

【利用者の声】

「木の香りがしていて、気持ちが良い。」「色んな使い方ができるので感心した。」「テレビのニュースで知って見に来た。こんな立派なものができるなんてすごい！」「子どもが小さくても一緒に過ごせることができるのでうれしい。」という声があった。

【まとめ】

昨年度の夏から取り組んできた「ロビーリノベーションプロジェクト」がようやく完成した。昨年度は、琉球大学の学生による公民館利用者のヒアリングからプランの設計、テーブル（1台）の完成までとしていたが、今年度は沖縄工業高校の生徒2人が引き継ぎ、テーブル1台と、「とうふいっちょあがり」と名付けられた小上がりを製作した。3月のお披露目会では、テレビや新聞でも取り上げられ、さっそく公民館の顔として利用者に親しまれている。

〔２〕 学社融合事業

キャリア教育プロジェクト

趣 旨：学生達に世代の違う人々の交流を行い、コミュニケーション能力を高め、社会対応能力を身につける。又、働くとは何か？体験談を話す事によって、個人の視野を広げる事により成長や自信を深め、未来を担う人材育成と青年の活躍の場が増える。平和学習では、戦争体験者から体験談を話すことによって、戦争の悲惨を後世へ伝える。地域の歴史散策により、地域への親しみを感じ地域の活性化に寄与する。

期 間：令和3年6月3日（木）～11月19日（金）

時 間：授業時間帯に実施

場 所：那覇市繁多川公民館及び各中学校

対 象：那覇市立小中学校／沖縄県立・私立高校
県内外の大学／教育関係者

受 講 料：無料 定員：なし

参加延べ人数：567人

★★ 学習プログラム ★★



《寄宮中学校キャリア教育講師の方々》

期 日	内 容	参加人数
6月 3日(木)	「地域で起こった戦争の概要」@識名小学校5学年 講師：那覇市繁多川公民館 館長 南 信乃介 共催：那覇市立識名小学校	104人
6月10日(木)	「繁多川の沖縄戦」 講師：波平 元維（戦争体験者）	10人
7月 1日(木)	「質疑応答で考える繁多川の沖縄戦」@識名小学校5学年 講師：波平 元維（戦争体験者） 共催：那覇市立識名小学校	103人
7月 8日(木)	「県庁警察部壕へ入ろう」@識名小学校5学年 講師：柴田 一郎	104人
9月13日(月)	島守ワークショップ「地域から見える沖縄戦と島守」 共催：栃木島守のうた実行委員会 栃木県立栃木高校演劇部、栃木UBDC専門学校生参加	38人
11月19日(金)	寄宮中学校キャリア教育 企業講師：15人	208人
※職場体験受入れについては、新型コロナの影響により、中止となりました。		



《県庁警察部壕へ入ろうオンライン学習》



《生徒への講話》

【まとめ】

今年度は、コロナ禍の影響で学校でのキャリア教育や職場体験は中止や延期となりました。その中でも、熱意ある先生方とオンラインでの平和学習を行ってきました。特に壕の案内は事前に壕内での撮影をし、困難も多かったですが、まるで壕内を探索しているような授業になりました。

オンラインでの平和学習のやり方がチャレンジできたので、栃木県の高校生や専門学生向けに沖縄戦についてワークショップをすることができました。

ウクライナでの一般市民を巻き込んだ侵攻がある昨今、若い世代と平和について考え表現する機会がとても重要だと感じました。

〔３〕 プロポーザル事業 コミュニティ支援

地域計画 教育部会

趣 旨：「地域の子どもは地域で育む」をスローガンに、識名小校区のすべての児童が放課後を安全・安心に過ごせるように、学校・地域・行政が連携して取り組むことを目指し、現状把握や事業の検討・実施などを包括的に行えるような議論の場を設ける「識名小放課後子ども総合プラン会議」、居場所づくりの実践「プレーパーク」、地域住民が集い遊び場について考える「円卓会議」を実施する。

期 間：令和3年5月8日（土）～12月16日（木） 会議全2回、円卓会議1回、プレーパーク4回

時 間：10:00～12:00

場 所：那覇市繁多川公民館、宝口公園

対 象： 識名小学校、識名小PTSA、民生委員児童委員、家庭教育支援員、識名児童クラブ、童夢児童クラブ、いどばた学童クラブ、識名さつき学童クラブ、識名児童館、繁多川自治会、識名自治会、識名1丁目自治会、県営繁多川高層住宅自治会、繁多川市営住宅自治会、子ども政策課、生涯学習課、近隣住民

参加延べ人数：309人

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	参加人数
5月 8日（土）	プレーパーク（広場で泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等）	49人
5月19日（水）	会議（放課後の現状共有・事業計画・識名小新校舎建設について）	18人
7月17日（土）	プレーパーク（広場で泥んこ遊び、木工、ロープ遊び、昔遊び等）	32人
10月15日（金）	プレーパーク（火おこし、木工、ロープ遊び、昔遊び等）	25人
10月28日（木）	広場の利用マナーについての円卓会議	20人
11月23日（火祝）	プレーパーク（宝口公園へ出張）※主催：松島自治会	144人
12月16日（木）	会議（放課後の現状共有・事業進捗）、研修「いのちの教室」	21人



《ボール遊びについての意見交換》



《着きそうで着かない！火起こし体験》

【参加者の声】

- ・地域のつながりが、子どもだけではなく大人にとっても安心安全につながると感じた。（円卓会議）
- ・語りたいことがそれぞれの立場にあることを知った。場の設定は大切だと思う。（円卓会議）
- ・火起こしは難しくて煙で目が痛くなったけど楽しかった。（プレーパーク）

【まとめ】

長引くコロナの影響に加え、識名小学校の校舎建て替えなど子どもたちの放課後の居場所が影響を受けている。関係者で連携し情報交換や取り組みを今後も継続していき、子どもたちや家庭を取り残さないネットワークづくりを今後も強化していきたい。

地域計画 福祉・防災部『繁多川地域計画』

趣 旨：少子高齢化の中、財政の厳しさも増し、公共が担い続けられる事業も縮小傾向にある。高齢者の孤立、孤独死、多くの課題を抱える家庭、働いても働いても暮らしが改善しないワーキングプア、県民の30%が貧困という現状の中、地域ネットワークが教育や福祉・防災部を構成し自らの手で、できる課題解決に寄与する。

期 間：令和3年4月～令和4年3月

時 間：実施内容により異なる

場 所：繁多川公民館およびその周辺

対 象：那覇市在住・在勤・在学及び興味のある人

受 講 料：無料 定員：なし

参加延べ人数：1,063人（視聴回数419回）

共 催：那覇市地域包括支援センター繁多川

協 力：繁多川自治会、県営繁多川高層住宅自治会
繁多川市営住宅自治会、那覇市防災危機管理課
琉球大学清水研究室



《シェアマーケットキャラバン》

★★ 学習プログラム（一部抜粋） ★★

期 日	内 容	参加人数 (視聴回数)
4月	シェアマーケットキャラバン（識名3丁目）	20人
5月	シェアマーケットキャラバン（三宝邸）	20人
	地域情報発信サポート「ちむぐるに乾杯！～繁多川まーい②～」	(130回)
9月	シェアマーケットキャラバン（識名3丁目）	20人
10月	地域情報発信サポート「ちむぐるに乾杯！～繁多川まーい③～」	(147回)
11月	防災危機管理課、福祉政策課との意見交換会	10人
12月	シェアマーケットキャラバン（繁多川市営住宅）	20人
令和4年 1月	地域情報発信サポート「ちむぐるに乾杯！～(株)丸吉塩せんべい～」	(142回)
2月	地域計画策定会議～地域計画評価・次年度計画検討～	40人
3月	若手会～火を囲んでユンタク会～	39人

【まとめ】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の計画通りに実施することはできなかったが形や手法を変え、計画に沿った実施をすることができた。コロナ禍で今まで見えてこなかった問題が見え、改めて実施している内容の重要性を認識することができた。緊急事態宣言中でも、シェアマーケットキャラバンを実施できたのはよかったと思う。出張することで、公民館に足を運べない高齢者も利用することができ、交流が生まれていた。次年度以降も、コロナ禍をふまえた上でアクションプランに沿って実施できるようにしていきたい。



《若手会：火を囲んでユンタク会》

グローバル公民館

趣 旨：「アラブの春」後の民主化が起こったエジプトで、日本の民主化を支えた公民館設立に貢献し、公民館の活用の幅を広げ社会教育を促進する。また、合同講座グローバル公民館を開講し、相互のまなびあいを通してグローバル人材の育成とする。

期 間：下記プログラム参照 場所：繁多川公民館およびその周辺、エジプトカイロ近郊

対 象：那覇市在住・在勤及び興味関心のある方 受講料：なし

定 員：30人（うち受講決定人数29人） 参加延べ人数：72人

★★ 学習プログラム ★★

期 日	内 容	講 師 / 備 考	参加人数
令和4年2月4日 (金)	「エジプトについて一緒に語ろう」	講師：Hamdi Ellatif (エジプトガイド専門家)	8人
3月11日 (金)	「3.11日本の防災の取り組み」	共催参加 講師：稲垣 暁 (防災士) 主催：Taa 公民館 (エジプト)	29人
3月20日 (日)	「公民館のしあさってイベント」他	エジプト Taa 公民館よりメッセージと繁多川公民館の利活用を考える話し合い 話者：モハメッド アブデルミギード (グローバル公民館責任者)	28人
3月25日 (金)	「古代エジプトシリーズ エジプトについて学ぼう～カイロ考古学博物館にある古代エジプトの遺跡について①～」	共催：Taa 公民館 (エジプト) 講師：Hamdi Ellatif (エジプトガイド専門家)	7人



【参加者の声】

- ・今回は勉強不足での参加だったので、次回はある程度勉強してから参加したいなと思いました。
- ・外国の人と実際にお話する機会を得られて、とても良かったです。

【まとめ】

コロナ禍の影響で沖縄やエジプト双方とも活動が制限される中、オンラインで講座を実施することができた。今年度は、エジプトのTaa 公民館が本格的に始動したこともあり「古代エジプト」、「マンガ」など人々が関心のあるテーマから互いの公民館でのサークル活動に発展させられるよう企画準備を入念に進めた。これは現地のコーディネーター人材育成も兼ねているため、例えば「エジプトについて一緒に語ろう」でニーズを聞いて、「古代エジプトシリーズ」を企画するなどステップを踏まえた。

3.11の防災講座は、エジプト側が考えた企画であったが、実際に被災地支援を続けられている稲垣氏を講師に招き、東日本大震災での学びを共有した。日本を想ってくれている海外の方々との貴重な時間であった。「公民館のしあさって」イベントでは、コロナ禍を経て、当公民館の利活用を地域の方や公民館利用者と考えた機会を持った。その際、新しい概念で公民館運営をスタートしているTaa 公民館の実践や可能性を話していただくことで、様々な視点でディスカッションすることができた。